

研究協力をお願い

昭和大学病院および附属東病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昭和大学病院・附属東病院におけるコードストローク導入半年間の運用の実態調査

1. 研究の対象および研究対象期間

2024年2月15日から2024年8月31日までの間に昭和大学病院又は附属東病院に入院していた患者さんのうち、同期間内にコードストロークが発動され、院内各部署から医療安全管理部門にコードストロークの事例として報告された患者さん

2. 研究目的・方法

脳の血管が詰まる脳梗塞を発症した際、直ちにその詰まりの原因となっている血栓を溶解したり、取り除いたりする治療が開発されています。しかし、これらの治療は脳梗塞の発症後、限られた時間の中でしか行うことができません。病院内で脳梗塞を発症した場合には、病院外で発症するよりも迅速にこれらの治療を行える可能性が高いです。当院では2024年2月15日より代表的な脳梗塞の症状(上肢麻痺、顔面麻痺、失語、眼球偏倚、半側空間無視)を早期に発見し、治療につなげるための「コードストローク」というシステムの運用を開始しました。本研究は、運用開始後半年間にコードストロークが発動された患者さんの状況を調査します。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2025年5月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では診療録を用いて、以下の情報を収集します。

年齢、性別、入院していた診療科、基礎疾患、コードストローク発症日、コードストロークを発動することになった症状の最終未発症確認時刻と発症時刻、コードストローク発動時刻、頭部画像検査実施時刻、頭部画像所見、コードストロークを発動する契機となった症状をきたした疾患の診断名、脳卒中に対して行われた治療法と転機

5. 外部への試料・情報の提供

本研究で取得した診療情報は研究責任者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等の個人を識別できる情報を削除し、研究用のIDを付与することで符号化します。符号化した診療情報は昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院の外部から切り離されたコンピューター内にそれぞれ保存され、分

析に用いられます。

6．研究組織

研究者責任 昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 教授 氏名 村上秀友

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 氏名：村上秀友

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8781